

社会－8（第5学年） 互いの考えを伝え合い、集団の考えを発展させる事例  
 【学習活動の概要】

<p>1 単元名 自然災害を防ぐ</p>				
<p>2 単元の目標                  我が国の自然災害防止について、地図や資料などを活用したり、インターネットを活用したりして調べて、我が国の国土においては様々な自然災害が起こりやすいこと、その災害を防止するために国や県などが様々な対策や事業を進めていることが分かり、国土の環境保全には国民一人一人の協力や防災意識の向上が必要であることを考えるようにする。</p>				
<p>3 評価規準                  【社会的事象への関心・意欲・態度】                  自然災害の防止の取組に関心を持ち、それを意欲的に調べ、国土の環境保全や協力の大切さや国民一人一人が防災意識を高めることの大切さについて考えようとしている。                  【社会的な思考・判断・表現】                  自然災害の防止の取組について学習問題を見いだして追究し、自然災害と国民生活とを関連付けて、国土の環境保全には国民一人一人の協力や防災意識の向上が必要であることを根拠を示して説明している。                  【観察・資料活用の技能】                  自然災害の防止について、地図や資料などを活用したり、現地に問い合わせたりインターネットを活用したりして、必要な情報を集めて読み取り、白地図や作品などにまとめている。                  【社会的な事象についての知識・理解】                  我が国の国土では、様々な自然災害が起こりやすいこと、その被害を防止するために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。</p>				
<p>4 教材                  本単元においては、自然災害が起こりやすい我が国において、自然災害の恐ろしさに気が付き、自然災害の被害を防止するために国や地方自治体、地域の人々によって行われている様々な対策や取組について調べ、防災に対する計画や取組に参加・協力しようしたり、いつ来るかわからない災害に対して、普段から自然災害に対する備えをしようとしたりする態度を育てる。特に「地震災害」を取り上げ、日本は世界の中でも地震が多いという国土の特色や、地震災害の被害の大きさを理解し、地震災害に備える国や地方自治体、地域による取組を具体的に調べ、その重要性とともに国土にくらす一人として自分がどのように行動すべきかを考えるようにすることをねらった。</p>				
<p>5 主な学習活動                  (1) 単元の指導計画（全6時間）</p> <table border="1" data-bbox="204 1256 1417 1800"> <thead> <tr> <th data-bbox="209 1263 890 1317">学習活動</th> <th data-bbox="895 1263 1412 1317">言語活動に関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="209 1323 890 1794"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地震災害の映像や写真、新聞記事から被害の大きさや発生の理由について考える。(1)</li> <li>○日本の地震災害の現状について国土の特徴と関連付けながら調べ、学習問題をつかむ。(1)</li> <li>○国や東京都、自分の住んでいる区市や地域の防災の様々な取組について調べる。(2)</li> <li>○地域の防災への活動から、人と人のネットワークづくりが防災にとって大切であることを考える。(1)</li> <li>○これまでの学習を基に、学級防災会議を開き、国民の一人一人の災害に対する正しい知識や事前の備えをすることが被害を最小限におさえるために大切であることを考える。(1) <b>本時</b></li> </ul> </td> <td data-bbox="895 1323 1412 1794"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震災害の映像や写真、様々な統計資料から、国土の特徴について話し合わせ、日本が地震大国であることをとらえさせるようにする。</li> <li>・国や東京都・地域・自分の取組を表に整理し、整理したことをもとに、比較したり、図に整理したりする。</li> <li>・自分にできること、みんなですべきことを考え、多様な立場から話し合わせる。</li> <li>・日本の国土の特徴、公助、共助、自助のかかわりなどを踏まえて、自分なりに大切だと思うことをまとめさせる。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 本時の学習（6 / 6）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 目標 災害から身を守るためにできることを考え、「防災会議」を開いて話し合い、自分の考えと友達の考えとを関連させながら、防災にとって大切なことをまとめるようにする。</li> <li>② 展開             <ul style="list-style-type: none"> <li>○公助・共助・自助に分かれて、キーワードと考えを確認し合う。</li> <li>○キーワードを基に自分の考えを発表する。</li> <li>○意見交換をする。</li> <li>○防災にとって大切なことをまとめ説明する。</li> </ul> </li> </ol>	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地震災害の映像や写真、新聞記事から被害の大きさや発生の理由について考える。(1)</li> <li>○日本の地震災害の現状について国土の特徴と関連付けながら調べ、学習問題をつかむ。(1)</li> <li>○国や東京都、自分の住んでいる区市や地域の防災の様々な取組について調べる。(2)</li> <li>○地域の防災への活動から、人と人のネットワークづくりが防災にとって大切であることを考える。(1)</li> <li>○これまでの学習を基に、学級防災会議を開き、国民の一人一人の災害に対する正しい知識や事前の備えをすることが被害を最小限におさえるために大切であることを考える。(1) <b>本時</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震災害の映像や写真、様々な統計資料から、国土の特徴について話し合わせ、日本が地震大国であることをとらえさせるようにする。</li> <li>・国や東京都・地域・自分の取組を表に整理し、整理したことをもとに、比較したり、図に整理したりする。</li> <li>・自分にできること、みんなですべきことを考え、多様な立場から話し合わせる。</li> <li>・日本の国土の特徴、公助、共助、自助のかかわりなどを踏まえて、自分なりに大切だと思うことをまとめさせる。</li> </ul>
学習活動	言語活動に関する指導上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○地震災害の映像や写真、新聞記事から被害の大きさや発生の理由について考える。(1)</li> <li>○日本の地震災害の現状について国土の特徴と関連付けながら調べ、学習問題をつかむ。(1)</li> <li>○国や東京都、自分の住んでいる区市や地域の防災の様々な取組について調べる。(2)</li> <li>○地域の防災への活動から、人と人のネットワークづくりが防災にとって大切であることを考える。(1)</li> <li>○これまでの学習を基に、学級防災会議を開き、国民の一人一人の災害に対する正しい知識や事前の備えをすることが被害を最小限におさえるために大切であることを考える。(1) <b>本時</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震災害の映像や写真、様々な統計資料から、国土の特徴について話し合わせ、日本が地震大国であることをとらえさせるようにする。</li> <li>・国や東京都・地域・自分の取組を表に整理し、整理したことをもとに、比較したり、図に整理したりする。</li> <li>・自分にできること、みんなですべきことを考え、多様な立場から話し合わせる。</li> <li>・日本の国土の特徴、公助、共助、自助のかかわりなどを踏まえて、自分なりに大切だと思うことをまとめさせる。</li> </ul>			

## 【解説】

### 【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領・社会の第5学年の内容(1)では、「我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする」、「エ 国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止」と示されている。また、各学年にわたる内容の取扱いと指導上の配慮事項として「社会的事象を多面的、総合的にとらえ公正に判断することができるようにする」ことが示されている。『小学校学習指導要領解説 社会編』においては、学年の目標に関する記述として「調べたことや社会的事象の意味について考えたことを、根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現し説明することができる」ことが示されている。

本事例は、上記エの中から「自然災害の防止」だけで単元を構成したものである。本事例では、意見交換及び集団思考の場を設定することとした。国や東京都、地域、自分たちの防災の取組について調べ、まとめてきたことを基にして、「学級防災会議」を開き、地震災害の被害から身を守るためにわたしたちにできることを話し合う活動を行った。児童は学習したことを基にして、公助・共助・自助の異なる立場から意見交換を行い、自分の考えを再構築していった。

### 【言語活動の充実の工夫】 一学級防災会議を開いて話し合う一

地震災害の被害を最小限に防ぐために、国や東京都、そして地域の人々の取組、つまり、公助・共助・自助を具体的に調べ、表や図で表しながら、まとめてきた。

その上で、地震災害の被害から身を守るためにわたしたちにできることを考えまとめた。その際、次の工夫を取り入れた。

- 立場に分かれた会議の疑似体験を設定した。
- 自分の考えをキーワードで表現させた。

自分の考えをまとめる時点で、主張の視点をはっきりさせるため、考えをまとめたキーワードを作成させ、プレートに書かせた。このキーワードを基に、まず、それぞれの意見を公助・共助・自助に見える形で整理し、話し合いを行った。

話し合いでは、「私のキーワードは“かかわり”です。阪神大震災でも、多くの救出活動が地域の人々によって行われました。近隣の人々と日頃からのかかわりが大切だと思います。」「ぼくのキーワードは、情報です。国や都が、緊急地震速報や防災マップ、災害伝言ダイヤルなど情報を正確に伝えたり、そして、ぼくたちがそれを利用することが大切だと思います。やはり、災害の時には、何も分からないので、パニックにならないように正確な情報が必要です。」というように互いに根拠を示しながら、自分の考えを発表し、意見交換を行った。

意見交換を進めていくことで、「防災会議を開いて、結局、一番大切なのは、みんなと協力することだと思った。国や都が対策を立ててもそれを利用しなければ意味がない。また、地域で防災訓練をしても、参加しなければ意味がない。国や都、地域、そして自分も連携して協力することが大切だと思った。私の家では、地震の対策や避難訓練をしていない。「それでもいいや」と思っていたけれど、これからは、いつ地震が来てもいいように物の準備や心の準備をしっかりとっておきたい。」というように、公助・共助・自助のそれぞれが欠かせないことや連携・協力の大切さを再確認していった。そして、最終的に他人事の防災意識から、「自分ごと」の防災意識へと高まっていった。「学級防災会議」を開き、意見交換から自分の考えを再構築し、最終的な協力関係構築の疑似体験をしたことにより、自分のこととしての防災意識、自覚の高まりへとつながっていった。

